

## 自然科学系図書館と南福利施設4月オープン



角間キャンパス南地区に完成した施設=3月9日

角間キャンパス南地区に建設が進められていた自然科学系図書館と南福利施設が2月いっぱいまで完成し、4月（一部3月）のオープンを目指して準備が進められている。建物は、図書館、福利施設、会議室を一体化した複合施設で、民間の資金と技術・経営ノウハウを活用してサービス向上を図るPFI（Private Finance Initiative）方式により、建物の建設と維持管理は民間会社が行う、運営は大学が行う。

### ◆各階の構成◆



キャンパス内の食堂の数が増えてくると、「南福利施設の学生食堂」ではわかりにくいし、味気ないね。この際、全食堂に愛称をつけたらどうかな…。



### ◆主な施設の案内◆

【自然科学系図書館】工学部分館、薬学部図書室、理学部学科図書室などに分散していた資料を統合した、自然科学系向けサービスを集約的に行う図書館。1Fに雑誌、2Fに図書が配置され、自動化書庫の導入により、古い資料にもアクセスしやすくなっている。開館時間中（平日8:45-20:00、土曜10:00-17:00）は市民をはじめ誰でも利用可能。入り口は1F。自然科学系の教員・学生等は同研究棟2Fの渡り廊下経由で24時間利用が可能。座席数は約420席（工学部分館の7倍）。4月5日サービス開始予定。

【特別食堂】フードサービス会社の運営により、来客者の食事にも利用できるよう、学生食堂よりグレードの高い食事、喫茶がフルサービスで提供される。座席数70席。3月22日オープン予定。

【学生食堂】大学会館食堂（550席）より多い630席を有し、運営する大学生協によると、北陸ではもちろん、全国的に見ても数少ない巨大食堂になるという。バイキング方式の「サラダバー」や焼きたてのパンを出す「パン工房」が目玉。4月1日オープン予定。

病院長のストレス



医学部附属病院長  
小 泉 晶 一

いや、病院長がこんなに大変とは思いませんでした。しぶしぶというわけでもなかったのですが、年回りからして順番かな、と思って昨年4月に病院長をお引き受けしたのです。それまで医者は医学を研鑽し最高の医療技術を提供する技術者であればよいとの考えが強かったものですから、病院運営とか特に経営といわれて面喰らいました。経営的な勘定は事務職に任せてと思いましたが、あちらも国家公務員の親方日の丸意識が法人化しても抜けてはおらず、医療職共々右往左往四苦八苦です。それでも1年経って、わたしもようやく病院収入160億という、サラリーマンには関係なかった桁の数字が身近に感じられるようになりました。大学全体予算の約1/3ですから、非常なストレスです。

最初からお金の話で恐縮ですが、毎年2%経営改善せよとの命令が厳しいですね。17年度は3億2千万、18年度は6億4千万、19年度は9億6千万ムムム気が減入ります。これだけ収入を増加するか、または節約しなさいということです。新病棟、新中央診療棟（手術室、検査室等）そしてこれからの新外来棟建築費の償還金が大きいからです。でもこの建築費はすべて病院収入から返済しなければならないのでしょうか？受益者負担とはいえ医学生教育にも使用するわけですから、半分ぐらいは国が面倒みるべきではないでしょうか。もちろん今年度からすでにがんばっています。増収はそれほどでもないのですが、医療材

料や医薬品の統一化、外注検査の価格交渉、院内けちけち運動などで億単位の節約になりました。

でも、1年経験してわかりました。経営は経済学ではなく、心理学で考えねばならないということです。患者さんの立場、患者さんの心理からすると、大学病院は最後の砦です。難治の疾患には研究的な取組みも患者さんは望んでいます。新しい治療法を開発しなければなりません。また時間外診療は高次救命救急医療に特化し、地域のなかで大学病院の役割分担をはっきりさせていきたいと思います。患者さんに選ばれる病院、学生や研修医に選択される大学病院でなければなりません。金沢大学病院のブランドをはっきりアピールしなければなりません。がんの総合医療に加え、肝臓センター、ハート（心臓）センター、炎症性腸疾患センター、その他いろいろ専門外来をオープンしております。今後も新規オープン予定です。各診療科のホームページをご覧ください。

さて、われわれ病院職員全員も働きやすい、働く生き甲斐を感じる環境を作る必要があるのは当然です。看護師をはじめとするコ・メディカルスタッフを増員して余裕ある病院にしたいのですが、なかなか……。努力します。スタッフが生き生きと働いている病院は患者さんにも喜びを与えるでしょう。労働力はコストではなく資源です。

「にげるな」「あきらめるな」「ごまかすな」はある会社社長が会社再建のときに言った言葉ですが、わたしの現在の偽らざる心境を率直に表わしています。

病気になることが第一ですが、みなさん少なくとも一度は入院することがあるかもしれません。その時はお任せ下さい。病院職員一同、昼夜兼行、一心不乱、滅私奉公をお約束します。是非よろしく。

目 次

自然科学系図書館と南福祉施設4月オープン	1	障害のある学生への支援のあり方を学ぶ	5	ボランティア窓口が設置される	10
巻頭言 病院長のストレス	2	「学生の心・学生の選択」をテーマに文学部FD研究会	5	学んだ成果を地域に還元する仕組みを！	
第3回21世紀COEシンポジウム（環日本海域）	3	実りある就職活動をー就職支援室の取組ー	6	生涯学習推進「講演とリレートークの集い2005」	11
日本海と石川の食文化を考える公開市民講座	3	入学者選抜試験	8	ミニ講演 新種の折り鶴を生み出そう	11
第1回革新脳科学COE国内シンポジウム	3	外セ講演会		公開講座	11
キャンパスベンチャーグランプリCHUBUで		昭和女子大学の現代GP採択取組を紹介	8	動物のあしあと観察会ー角間の里山自然学校ー	12
2年連続のグランプリ受賞	4	個人情報保護とウィルス対策で研究会	8	前期日程合格発表	12
日本海と琵琶湖の環境を考える	4	医療事故を防ぐ！～厳しくなる行政処分について～	9	金大生協が50万円寄附	12
公開特許を研究に生かせ先行技術調査教育	4	学内各種情報の電子化・データベース化を議論	9	大学広報紙 リニューアル予告	12
企業家育成セミナー	5	工学部 退職教員記念講演会	9	編集後記	12
		留学生 人形浄瑠璃とスキーに歓声	10		
		留学生書道展開かれる	10		

### 第3回21世紀COEシンポジウム(環日本海域)

21世紀COEプログラム「環日本海域の環境計測と長期・短期変動予測」の第3回国際シンポジウムが2月28日から3月2日の3日間にわたり、石川厚生年金会館を会場に開催された。

第1日目の林勇二郎学長、早川和一拠点リーダーらの開会あいさつに引き続き3日間、国内外の研究者、専門家らによる研究発表、特別講演、パネルディスカッションなどが行われた。

また、今回のシンポジウムでは「環境データデータベースの有効活用について」をテーマに、本COEにおいて国内外の大学や研究機関、行政機関の専門家がこれからの環日本海域の環境研究について戦略的に話し合い、相互に補い、協力していくために立ち上げた「環日本海環境戦略研究機構」の初めてとなる会議も併せて開催された。



開会のあいさつをする早川教授

### 日本海と石川の食文化を考える公開市民講座

シンポジウムの開催を前に、日本海の自然環境がどのように石川の食文化を育ててきたかを考える、公開市民講座が2月27日、石川県生涯学生センターで開かれた。COEプログラムといしかわ国際協力研究機構、いしかわ大学連携促進協議会が共催した。講座では、気象や歴史の専門家、酒造メーカーの役員らがそれぞれの立場から講演し、パネルディスカッションも行われた。



講演者らによるパネルディスカッション

### 第1回革新脳科学COE国内シンポジウム

21世紀COEプログラム「発達・学習・記憶と障害の革新脳科学の創成」の第1回国内シンポジウムが2月18、19日の2日間にわたり医学部記念館で開催された。

医学系研究科狩野方伸教授の開会あいさつに続き、1日目は「発達・記憶とその障害の研究：革新技術によるアプローチ」、2日目は「発達・記憶障害脳研究：ヒトの脳機能解析」をそれ

ぞれテーマに、COE事業推進担当のほか国内研究者による研究発表が行われた。また、2日目には「高機能自閉症とアスペルガー症候群：豊かな成人期のために」と題して、学際科学実験センターの杉山登志郎客員教授による市民公開特別講演も行われた。



発表する北海道大学 神谷温之教授(左)とシンポジウム参加者(右) = 2月18日



## キャンパスベンチャーグランプリCHUBUで2年連続のグランプリ受賞

中部地域の学生による新事業提案コンペ「第2回キャンパスベンチャーグランプリCHUBU」で、本学大学院自然科学研究科博士後期課程1年の田原大輔さんと同博士前期課程2年の大村嘉さんが応募した「骨粗しょう症治療のための高速骨強度解析システムの開発」がグランプリを獲得した。昨年からはまったこのコンペでは、昨年も同研究科博士前期課程に在籍していた丹羽一将さんがグランプリに輝いており、2年連続の快挙となった。

このほか、本学から、大学院自然科学研究科博士前期課程1年の今井有希子さんが中部経済産業局長賞を、大学院法務研究科1年の古定常猛さんが奨励賞を受賞した。

コンペには、中部地域の大学・高専から50件が応募。グランプリをはじめ13件が入賞し、2月2日、名古屋市内のホテルで表彰式が行われた。



受賞後、スピーチをする田原さん

田原さん（左から4人め）と  
今井さん（同3人め）ほか受賞ら

## 日本海と琵琶湖の環境を考える

自然計測応用研究センター及び21世紀COEプログラム(環日本海域)主催で、2月16日、自然科学本館104講義室において、セミナー「閉鎖水域の環境－日本海と琵琶湖」が開催された。セミナーでは、海上保安庁海洋調査課長の谷 伸氏が「日本海の問題に関する諸問題」と題して、海洋地形や法律からみた海洋に関する講演を行った。また、滋賀県琵琶湖研究所総括研究員(客員教授:自然計測応用研究センター)熊谷 道夫氏が「琵琶湖の問題に関する諸問題」と題して、琵琶湖の環境変動記録や研究で利用されている湖内探査ロボットに関する講演を行った。質疑応答ではナホトカ号の重油流出事故に代表されるような日本海の問題に関する話題などが議論された。



講演する谷氏

## 公開特許を研究に生かせ 先行技術調査教育

2月14、15、26日の3日間、学内3会場で知的財産本部主催の特許出願のための「先行技術調査教育」第1部が開催された。先行技術調査教育は、地元企業の特許実務担当者を講師に迎え、研究者や学生・大学院生が、先行技術の検索方法を習得し、日常の研究で活用してもらうことを目的としたもの。

第1部では、特許電子図書館〔IPDL〕にインターネット接続し、キーワードやFタームという技術分類を用いた検索方法を説明。特許出願や情報検索に関心を持つ研究者らが、特許制度や検索手法を学んだ。

また、3月14日には、先行技術調査教育の第2部・先行技術調査結果の見方&第1部フォローアップ(質疑応答)も開催された。



特許制度の説明＝2月15日、医学部保健学科4302コンピュータ実習室

## 企業家育成セミナー

大学発ベンチャーを立ち上げようと、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーは2月15日、起業家育成セミナーを開催した。創業への意欲を持つ学生、大学院生や社会人など84名が受講した。

廣瀬幸雄ラボラトリー長、共同研究センターの瀬領浩一教授の講義に続いて、社団法人石川県ニュービジネス創造化協会の森岡吉男会長が、自らの経験談をもとにビジネスプラン作成のポイントを解説した。



「これからのベンチャービジネス—経営戦略—」と題して講演する森岡会長＝自然科学本館101講義室

## 障害のある学生への支援のあり方を学ぶ

2月14日、教育企画会議及び学生生活部主催の学生支援研修会が開催され、42名の教職員が出席した。

研修会ではメディア教育開発センター広瀬洋子氏による「障害のある学生への支援のあり方について：国際的な流れ」と題する講演があった。米国の高等教育支援及び日本の高等教育における障害者支援の現状が紹介され、障害者支援が大学全体の活性化や国際化につながり、今後は大学の評価にもつながっていくのではないかとという話に出席者は熱心に耳を傾けた。



講演する広瀬氏＝文・法・経済学部A202講義室

## 「学生の心・学生の選択」をテーマに文学部FD研究会

文学部は2月22日、FD研究会を開いた。はじめに、保健管理センターの鈴木健一助教授が、最近の学生事情、相談事情をもとに「あせって卒業させずに、じっくり成長させて世に送り出す。しかった後のアフターケアが大切。メールでの相談には面談して返す」など、教員の学生への関わり方についてアドバイスした。教員からは個々の事例に沿い、学生への対応方法についての質問が数多く出された。

次に、河合塾の谷口哲也氏が、「高校生・受験生から見た「金沢大学」と題して、今年の受験者の志願動向をもとに、文学部を中心とする本学志願者の出身地域、学力などを詳細に分析して説明した。教員からは、3学域構想による募集単位の区分が、志願者からどう受け止められるかなど、今後の学生募集の在り方について様々な角度から質問があった。



教員からの質問に答える鈴木助教授（右）と谷口氏（左）

## 実りある就職活動を — 就職支援室の取組 —

平成17年2月——

総合教育棟のほとんどの教室を使って「業界・企業研究会」が開催された。開催期間は4日。全国からの参加企業111社に対し、学生はおよそ1400人。

「学生と少人数での対話ができるのはいいですね」  
「(教室なので)スクリーンやモニターが使用でき、一般の説明会よりも面白いアプローチができます」

など、企業側にとっても好印象のこのイベント。

企画した金沢大学就職支援室の活動を中心に、本学の就職支援の今を追ってみた。

4日間で1400人。立ち見する学生の姿も  
=2月17日、総合教育棟B1講義室



### 就職支援室とは

就職支援室は平成14年3月に設置。今年で3年目を迎える「学生の出口である就職」を支援する部署である。

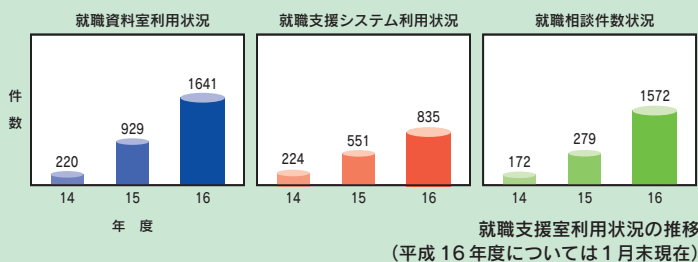
学生会館3F、カレーショップの隣と、学生に馴染み深い場所に部屋を構える反面、昨年、平成15年度までの利用者数は少し物足りない数字であった。

しかし、法人化元年の本年度、利用者数が倍増。就職相談件数にいたっては約5.6倍と大幅に増加した(表参照)。

本年度の集計はまだ1月時点のものであるため、今後この数値はさらに大きく伸びると思われる。



就職相談の様子=2月24日、就職支援室



就職支援室では模擬面接も行っている

### 学生のためのさまざまな企画

では、本年度の利用者増をもたらした要因はなんだろう？

従来、学部ごとに実施していた就職支援が事務一元化で就職支援室に集中した。これによって、以前よりも活発かつ全学的な取組ができるようになってきた。たとえば前述の「業界・企業研究会」は平成11年から始まり、今回で6回を数えるとともに、北陸三県の企業だけを集めた「業界・企業研究会北陸三県版」も本学主催で3月に開催される。

また、昨年8月には、まだ就職が決まっていない4年生、院2年生を対象とした「未内定者合同企業説明会」を開催。

同年11月からは、3年生、院1年生を対象とした、ゼミ形式で就職活動の基礎・基本を教える「北陸就職勉強会」が始まり、現在も開催中である。

このような活発な活動とともに「先輩や友人に進められて」来室する学生が増加している。

これは就職支援室が学生の間に「浸透」してきたことを示すと同時に、同室を利用した学生が、その親身の支援を評価した証拠ではないだろうか。また、昨年の10月には就職支援室ニュースが創刊された。これによって学生間ばかりでなく、教職員間の「浸透」も期待することができそうだ。

今後、就職に悩む学生に対し、教職員が早い段階で就職支援室の存在を教えるという取組が求められそうだ。

## 地方公務員合格者数が国立大学中トップ！ 生協との連携

さらに、就職支援室は金沢大学生協と連携しさまざまな企画を展開している。

中でも公務員試験対策講座は合格率78%（計算方法は表を参照）という非常に高い数値をマーク。最終合格者に占める金大生比率を大きく引き上げた。大学生協側は「市価の半額以下で赤字ぎりぎり」（担当者談）の料金で講座を提供。学外から講師を招き、資格取得予備校に引けをとらないカリキュラムを実現している。

これに対して就職支援室側は、各自治体・官公庁から採用担当職員を招いて「業務説明会・懇談会」を開催。学生にとって分かりにくい「組織への理解」そして「求められる資質」を伝え、モチベーションの維持とあるべき公務員の姿に導く場の設定につとめている。

また、大学生協の「就職支援メールサービス」という企画も見逃せない。tcareer@h-rengo.or.jpに学部・学科・氏名・連絡先電話番号を記入しメールを送ることによって、生協・就職支援室双方の情報がメールマガジン形式で受け取れるというサービスだ。就職活動がインターネット、電子メール中心となった昨今において、日々チェックが必要なメールで情報が送られてくれば、重要なガイダンス情報などを見逃すこともなくなる。

今後も就職支援室と大学生協の連携は拡大していく予定である。

	母数①	母数② 出席率50%以上	母数③ 出席率70%以上
公務員採用試験合格内定者	65名	65名	65名
公務員浪人決定者	12名	12名	18名
進路未決定者（不明含む）	40名	13名	
合格	117名	90名	83名
合格率	56%	72%	78%

公務員対策講座第一期生合格率

## 時代に即した就職支援とは

このような取組の結果、法人化元年に就職支援室の利用は大きく拡大した。

しかしそれによって、新たな課題も見えてきたようだ。1人でいくつも内定を得る学生とまったく内定をもらえない学生の2極化。そして、就職後3年以内に辞めてしまう学生の増加である。

これを踏まえ、同室が今後力を入れて取り組もうとしていることのひとつに「キャリア教育」があげられる。

単純に“キャリア”といえは“経験”“履歴”“経歴”を意味するのだが、就職支援におけるキャリア教育は“低学年時からの職業観や人生観の啓発”といった意味を持つ。これは、いろいろなことに挑戦できる低学年時から社会に対しての視点を養っておくことで、自発的に社会を見ることのできる学生を育成しようというものだ。

内定を得ることのできない学生に共通する要素として、企業の「大学で力を入れてきたことは何ですか」といった類の問いに答えられないという現実がある。この質問には、目的意識と問題解決能力を持った、即戦力となる学生を採用しようという企業側の採用基準が見え隠れする。大学3年次の就職活動開始時点にそのことに気づいたとしても、企業の満足する答えを返すのは難しい。また、早期に辞めてしまう学生は自分がやりたかったことと実際の業務にギャップを抱いている。それは就職活動時に十分な自己分析と企業研究を怠っていたことが一因である。

低学年時からキャリア教育を提供できれば、そのような学生を減らすことが期待できそうだ。

では、具体的にどのようなことを行うのだろうか。

現在、教養的科目で実施している講義「21世紀を生きるためのキャリアプラン」を再構成かつ体系化し、学年の進行度に合わせ、段階的に人生観、職業観の育成を図れるようにするといった方針が、昨年9月の時点で固まっている。たとえば1年次では「職業観の啓発」、2年次は「業界論」、3年次は「人材論」といったテーマで講義を行う。また、総合大学であることの強み——教養的科目には文理双方の学生が集う——を生かし、双方の考え方、価値観に触れられるような支援を行うことも、視野に入っているようだ。

これらの課題を達成するには、職員全体の協力はもちろん、学生とじかに接する教員の協力が不可欠である。

法人化と少子化によって大学が厳しく評価される今日。

金沢大学を出たら何ができるの？

その問いにすべての教職員が胸を張って答えられるようになりたいものである。



「私たちが親身になって支援します！」



支援室内。奥はカレーショップ。  
就職活動中の空腹にも対応している？



各種パンフレットがそろう



求人票が立ち並び

## 入学者選抜試験

平成17年度金沢大学入学試験が、前期日程は2月25日、後期日程は3月12日に実施され、それぞれ3,067人、1,030人の受験生が2.5倍、3.5倍の試験に挑んだ。



心を落ち着かせて試験開始を待つ受験生  
=2月25日、文・法・経済学部A101講義室

## 外セ講演会 昭和女子大学の現代GP採択取組を紹介



取組を報告する金子教授=総合教育棟会議室

外国語教育研究センターは2月14日、昭和女子大学の金子朝子教授を講師に、「現代GP「仕事で英語が使える日本人の育成」-昭和女子大学の取組み」と題した講演会を開いた。

16年度の文部科学省現代GPで採択された同大のプログラムは、ポストンキャンパスを活用し、学生が専門を生かしながら英語を使ってフィールドワークやインターン・シップ、NPO活動等を行う体験型の留学制度の構築を目指している。また、出発前の入念な準備教育に加え、帰国後も留学で得た英語力をさらに発展させるために、卒業まで一貫したプログラムが組まれている。

全学一体となった意欲的な取組みの報告に、参加者から質問が相次いだ。

## 個人情報保護とウィルス対策で研究会

2月16日、個人情報保護とウィルス・スパムメールの現状の2つをテーマに、総合メディア基盤センター情報基盤部門が主催する「第2回金沢大学ネットワーク研究会」が開かれ、47人の教職員が参加した。17年4月からの個人情報保護法施行に伴う、個人情報への関心の高まりやウィルス対策という差し迫ったテーマに、終了時間ぎりぎりまで熱心な議論が交わされた。



「待ったなし！個人情報保護」をテーマとするセミナー  
=総合メディア基盤センタープレゼンテーション室



## 医療事故を防ぐ！～厳しくなる行政処分について～



260名余りの医療従事者が参加した講演会＝医学部臨床第一講義室

医学部附属病院は2月28日、医療事故防止に関する研修会の一環として、大学教育開発・支援センターの青野透センター長を講師に「厳しくなる行政処分について～医療事故の未然防止のために～」をテーマに講演会を開催した。

近年どのような行政処分が科せられるようになったか、また、マスコミはどのようにそれを報じてきたかについて具体的な実例を挙げて講演が行われた。その後、参加者との質疑応答に入り活発な意見交換が行われた。

参加した医療従事者らは、一般の人々の医療観の一端を知り、今後の医療事故防止に向けた取組みの参考とした。

## 学内各種情報の電子化・データベース化を議論

総合メディア基盤センターは、学内の各種情報の電子化データベース化の推進と、その利活用方法を議論する第3回「金沢大学データベースフォーラム」を2月24日に開催した。学外者を含め約30人が出席し、独立行政法人情報通信研究機構（NICT）主任研究員で北陸先端科学技術大学院大学客員助教授の中川晋一氏による招待講演が行われた。



講演する中川氏  
＝総合メディア基盤センター  
プレゼンテーション室

## 工学部 退職教員記念講演会



工学部は、この3月で退職する教員の退職記念講演会を2月19、26の両日、工学部秀峯会館で開いた。講演した機能機械工学科稲部勝幸、岡島厚、茶谷明義、電気電子システム工学科長谷川誠一、渡邊一郎の各教授は、それぞれの研究生生活を振り返り、その中での出会いやエピソード、また、専門分野外の話など、笑いやジョークを交えて講演した。

講演後には、それぞれの指導学生・院生から花束贈呈があった。

長谷川教授は「38年間をふりかえって」と題して、年代毎に研究や恩師等の話、在外研究員の際のエピソードなどを紹介した。＝2月19日

## 留学生 人形浄瑠璃とスキーに歓声

2月21日から22日にかけて、留学生のスキー講習と交流行事が実施された。21日は、白山市東二口歴史民俗資料館で人形浄瑠璃を鑑賞し、留学生たちは独特のセリフまわしや人形の動き、人形・舞台の造りなどに興味深く見入っていた。22日は、白山

一里野温泉スキー場でスキー講習会が行われた。天候にも恵まれ、留学生たちは指導員からスキーの滑り方を教わりながら、思い思いに楽しく滑っていた。



人形と記念撮影



快晴のゲレンデで歓声をあげる

## 留学生書道展開かれる

留学生の課外活動の一環として開講している書道講座の受講生による書道展が2月22日から石川国際交流サロンとサテライト・プラザで開かれた。出展したのは11ヶ国、15名の留学生と本学書道部の学生2名。長い留学生で4年間、短い留学生は数ヶ月の練習だが、それぞれ一生懸命に作品に取り組み、落款印も自分で彫った。

今回の書道展では、同じ書道を学ぶ者どうしの交流をかねて、書道部の学生も賛助出品した。今後も留学生と学生の交流を続け、書の楽しさ、書く楽しさをお互いに深めていくという。



完成した作品を手にする留学生ら＝大学会館第8中会議室

## ボランティア窓口が設置される

平成17年度から学生のボランティア活動を積極的に支援するために、学生支援課内にボランティア窓口が設置された。

窓口では、次の業務を行う。

- ・学生のボランティア活動に関する情報の収集・提供
- ・学生のボランティア活動に関する啓発
- ・学生に対する学内のボランティア活動の機会の提供 など



設置された看板

## 学んだ成果を地域に還元する仕組みを！ 生涯学習推進「講演とリレートークの集い2005」

「時代の変化に応じた生涯学習推進と学習機会の在り方を考える」をテーマに、講演とリレートークの集いが2月26日、サテライト・プラザで開かれた。

市町村合併や財政難を背景に、生涯学習施策の停滞が懸念される中、行政、教育団体等が新たなネットワークの構築を視野に生涯学習の充実を目指そうと大学教育開放センターが企画したもので、県内の公民館はじめ社会教育関係者や金沢大学公開講座受講者、学生等約70人が参加した。

講演では、札幌国際大学の小山忠弘教授が講師を務め、「市民が自ら講師を務めるなど、学んだ成果を地域に還元できる『知識循環』の仕組みが必要」と提案した。

リレートークでは、小山教授が司会・コーディネーターを務め、発言者には、学習機会を提供する側と享受する側から合わせて6名が登壇した。参加者からは行政主導型から市民が自主的に学習機会を創出する社会作りへの転換に向けた活発な意見が出された。



今後の生涯学習のあり方について意見を交わした＝サテライト・プラザ集会室

### 三二講演 新種の折り鶴を生み出そう

○月 日：2月5日

○講 師：鷺山 靖 教育学部助教授

○場 所：サテライト・プラザ講義室

○来場者：39名



### 公開講座

○教育と法

主任講師：畑 安次

法務研究科教授



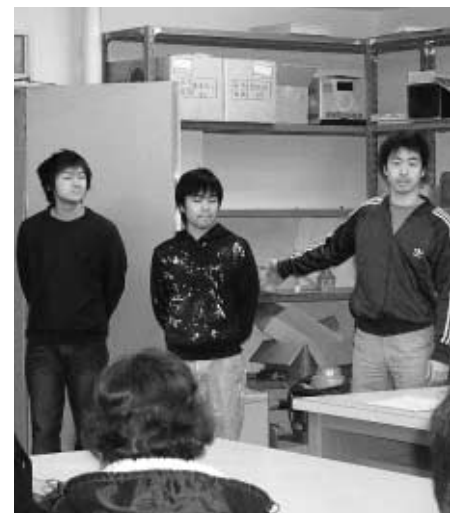
＝2月18日、サテライト・プラザ講義室

○美術へのいざないX

－塑造による頭像の制作－

主任講師：江藤 望

教育学部助教授



＝2月26日、教育学部第2彫刻教室

## 動物のあしあと観察会 - 角間の里山自然学校 -

角間の里山自然学校では2月12日、富山ファミリーパークの山本茂行氏を講師に「動物のあしあと観察会」を行った。約20人の参加は、雪の積もった里山ゾーンを歩きながら足跡を探した。当日は朝まで雪で、足跡が消えてないかと心配されたが、すぐにテンの足跡が見つかった。この足跡から、テンがいつ何のためにその場所を歩いたのか、みんなで推理した。雪をかき分けながら里山ゾーンに入ると、ウサギの足跡が縦横無尽に。さらにカモシカらしき足跡も。身近な場所で、動物が活発に活動している。里山ゾーンに豊かな自然が残っている証拠だ。たくさん足跡を見つけ、子供達はもちろん大人も十分に楽しんだ。



説明を聞く参加者

## 前期日程合格発表

3月7日、17年度の入学者選抜前期日程の合格発表が行われ、1,436人に喜びの春が来た。合格発表が行われた大学会館前では、アメリカン・フットボール部員の胴上げで、合格者が次々と宙に舞った。



ヤッター、合格だ！

## 金大生協が50万円寄附

金沢大学生活共同組合は3月15日、本学に50万円を寄附した。生協からの寄附は今回で3回目。



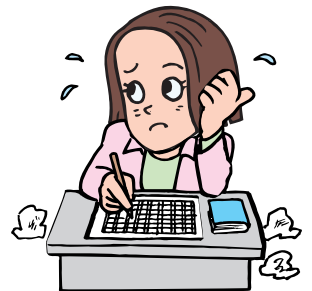
林学長（左）と生協の田中一郎理事長  
＝事務局小会議室

## 大学広報紙 リニューアル予告

長期間、ご愛読いただきました月刊アカンサスニュースは今月号を最終号として幕を閉じることになりました。平成8年4月から9年間、大学の動きを写真と短い記事と伝える「グラフ広報紙」として、大学の今を伝えてきました。しかし、最近の紙面には少々マンネリの気配がチラホラ…。

そこで、社会への説明責任が重視される中、大学の教育・研究・社会貢献・医療活動などをもっと学外の方に理解していただ

く必要があると考え、新年度から主として学外向けの季刊広報誌としてリニューアルすることになりました。月刊のアカンサスニュースでは伝えきれなかった内容に踏み込んだ誌面作りを考えています。乞う、ご期待！



## 編 集 後 記

“ともかくいま願うことは、いわゆる「3号雑誌」とならないよう、発行を続けることである。「継続は力なり」を実証するためにも……”（創刊号の編集後記）との願いどおり「3号雑誌」とはならず、ともかく今号で99号を迎えることができた。記念の100号となるべき4月号をもって「月刊」から「季刊」に衣更えしても、継続して発行してきた力は脈々と新広報誌に受け継がれる。奇しくも創刊と終刊を担当することとなった。長く御愛読いただき感謝申し上げます。（KO）

記事訂正：平成17年2月18日発行の月刊アカンサスニュース第98号5頁の表中、国名と大学の対応に誤りがありました。ヘルシンキ工科大学（フィンランド）、ナンシー第二大学（フランス）、レーゲンスブルグ大学（ドイツ）、ダブリンシティ大学（アイルランド）の誤りでした。お詫びして訂正します。

平成17年3月18日発行 千920-1192 金沢市角間町 TEL 076-264-5024  
(原則として毎月1回第3週に発行) 編集 金沢大学広報室 FAX 076-234-4015

- ◆本紙の内容、その他の本学に関する諸情報については、「金沢大学ホームページ」(愛称“KUPIS”(キューピーズ)) (アドレス=<http://www.kanazawa-u.ac.jp>)でもご覧いただけます。
- ◆本紙に関する御意見・御要望などは、電子メール(E-mail) = [general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp](mailto:general1@kenroku.kanazawa-u.ac.jp) でも受け付けています。



コンペで各社から提案があった広報誌プラン